



一月に1回 聴き手だよりをお届けします

「集落の話の聴き手」事業では、これまで集落の思い出や子どもの頃の暮らしの様子のお話を伺い、活動の一部を冊子にてご紹介させていただきました。

紙面の都合一部のみで紹介となってしまうので、今年は月1で聴き手だよりを発行させていただきます。活動内容と昨年紹介できなかった集落の魅力をご紹介します。



今年度は2人の新メンバーを加えて活動していきます



「馬と共にあった暮らし」「方言」「昔の写真」「やらなくなった行事」から

昨年度はコロナ禍であることから、おひとりずつお話を伺う活動を主におこなってきましたが、今年度は複数人とテーマを設けて話を聴く活動を行います。

テーマは昨年度を踏まえて「馬と共にあった暮らし」「方言」「昔の写真」「やらなくなった行事」などを出発点に検討しています。こちら

は文字制限のないインターネットでの発信を軸に行う予定ですが、一部をこちらの聴き手だよりでもご紹介していきます。

素人の読みづらい文章で申し訳ないですが、温かい目で見守っていただければと思います。

募集

現在の佐久穂町内で撮影された「古い写真」を募集中!



写真プロジェクトでは、この地域に暮らした方々の古いお写真とエピソードを募集し、3月に茂来館にて写真展を開催予定です。昔の写真は持ち主がいなくなったあと、処分されたり、表に出ることなく片付けられる可能性があります。ですが、デジタル写真の現在とは違い、カメラも珍しい頃ののものや、その時代を知るとも貴重な存在です。お写真をお持ちの方はぜひご連絡ください。

時期 おおよそ100年前の大正12年頃～昭和30年代位

内容 日常的な風景や景色でも構いません。
(拝見させていただくと共に、どういったお写真かお話を聞かせてください。)

お写真をお持ちの方をご紹介くださっても結構です。まずはご連絡お待ちしております。



活動進捗

「馬と共にあった暮らし」



物心ついたときから家族の一員で、カサカサの木の葉が大好きだった

昭和46年頃まで自宅で馬を飼っていた、上区新田の三井さん宅を訪問させて頂き、馬耕や馬搬(土曳き)のお話を伺いました。

詳しい内容は『さくほ集落の話の聞き手公式note』に掲載予定です。

今後も馬と共にあった暮らしについて配信していきます。

さくほ集落の話の聞き手 公式note
<https://note.com/sakuhosyuraku>



✉ 筆岩と人の暮らし

小海線の踏切を渡り、山道を3分ほど上ると、筆岩の集落が見え始める。斜面に点在する家屋は12世帯。22年前に、八ヶ岳の美しさに魅せられて夫婦で移住した大竹夫妻。集落共同体の風習であるおてんまを知らず、野菜作りも初めてだった。過度に干渉してこない付き合い方が気に入った。

約25年前に移住した根岸夫妻。山火事があった時の様子を語ってくれた。「私が一番感動したのは、消防団員たちの消火活動です。地域を守るんだという思いが伝わってきました。長い年月を重ねることではか生まれぬ地域の力を実感しました。」

篠原優憲・敏子夫妻は、明治元年に建てられた家に住んでいる。敏子さんは、旧白田町出身（現在は佐久市白田）。それまでのお嫁さんは、近くの山間の集落から来た。敏子さん以外にも、旧白田町、坂城町、軽井沢町からお嫁に来たので、集落の雰囲気は変わったという。毎月開かれる女性サロンを通して、和気あいあいの関係が生まれている。

篠原耕一・ひで子夫妻の庭は見事なほど綺麗に手入れが行き届いている。耕一さんが庭木の手入れをし、ひで子さん

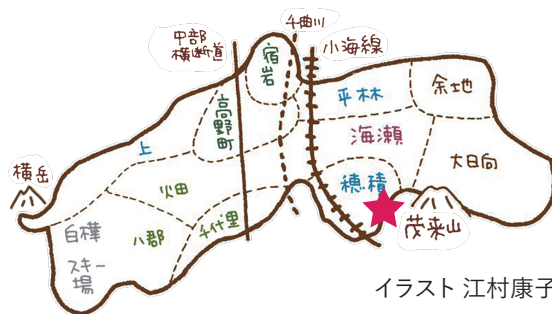


イラスト 江村康子



筆岩から見える八ヶ岳連峰

はいろいろな花を育てている。庭先から八ヶ岳がくっきり見える。耕一さんにデイビスさん一家のことを尋ねた。「マイクはいいやつだよ。協力的で、おてんまにも出るし、若いから仕事

が早い。筆岩に住んでもらってよかったよ。」

デイビスさん一家は9年前に引っ越してきた。自然がいっぱいあることが気に入った。特に家の前から見える八ヶ岳連峰の景色に感動したという。デイビス野々さん（中学1年生）は、「朝、早起きして見る山の風景が好き。春はまだ雪が残ってい



るし、下の緑がキラキラ光ってる。春は花だらけになるので大好きです。さみしくはありません。外を歩いていると、近所の人々が野菜やウドをくれる。だからお返しに、私が焼いたクッキーやマフィンを持って行くの。」

デイビスマイク・千穂夫妻。46歳で消防団員になったマイクは、「ここを選んで住んでいるので、買い物に行くのに15分ぐらいいかかって、不便だとは思いません。」

千穂さんは、「この人はみんな温かい。気軽に声を掛けてくれるし、その時の声の調子が本当に温かい。『ここに来てくれて、ありがとう。子どもの声が聞こえて嬉しいよ。』と。筆岩の集落は陽だまりのように、暖かいし明るい。それにどの家の庭も畑もとてもきれいにしている。だから、今日の朝、マイクは家の前の道に生えている雑草を取っていた。」 根岸さんの消防団員たちの活動、千穂さんの庭や畑を綺麗にする話を聞いて、筆岩には人をそうさせる風土が残っていると思った。風土が残っている集落は生き生きして、明るい。

(文責 西村寛)

